

## オ リ ー フ 通 信

せいしよの  
ことば

さあ、ベツレヘムへ行こう。

ルカによる福音書2章15節

神愛保育園

## 「12月をむかえて」

日が暮れるのが、一段と早くなり、冬の到来を感じさせる寒い時期になりました。その冬の訪れとともに、クリスマスの時期を迎えることとなります。

さて、保育園では、この時期、どのお部屋からもクリスマスの歌が聞こえてきます。それぞれのクラスで年齢に応じ、イエス・キリストの誕生をお祝いする準備をしています。このお祝いをする準備期間を「アドベント」(待降節)と言います。各クラスでは、アドベントカレンダーを準備して、そして4本のろうそくを1週間に1本ずつ礼拝の日に火を灯しながら、クリスマスの日を待ちます。また、4本の火には、それぞれ「希望」「平和」「喜び」「愛」の意味を持っています。特に、幼児に向けては、この4本のろうそくの意味を「いのち、人権、平和」として、子どもにもわかりやすく伝えることを行っています。悲しんでいる人、泣いている人の思いに気が付き、幼児は幼児なりに、他者のことを思い自分のできることを探してほしいと願っています。

そして、幼児クラスは、親子クリスマス会においてページェント(イエスキリストの聖誕劇)の練習が始まっています。キリスト教保育を行う神愛保育園にとっては、大きな行事の一つです。このページェントの役決めは、それぞれの子も達の思いや願いが交錯し、時間がかかります。そのため、役が決まったら子ども達も納得感があるようで、あとは本番まで一生懸命練習をしている姿があります。練習を重ねる中で、本番までの子ども達の様々な心の動き、多くの葛藤、喜怒哀楽には多くの成長の過程が含まれています。幼児クラスの日誌を読んでいると、この時期には毎日のようにページェントに関連した内容で満ち溢れています。いくつか様子を紹介します。

年中さんは、役決めまでは生き生きとしていた様子が、台本を見て、セリフが長いことを知り、不安になってしまいやめたくなくなった思いがありました。しかし、憧れの衣装を身にまったらまた、生き生きと練習を始めたという姿が見られました。年長さんは、クリスマスの歌が書いてある歌詞を読んで、「ダビデのむら(村)」と書いてある歌詞がちがうと担任に伝えてきました。よくよく話を聞くと、昨年までは、まだ字が読めず耳で聞いて覚えていたので、歌の歌詞を「たびのいえ(旅の家)」と歌っていたと知り、照れ笑いしたという事でした。一人ひとりの子ども達の成長が輝き、クラス全体がまとまって作り上げる関係性は、とても素晴らしいものです。当日が本当に待ちどおしいですね。

ところで、11月の神愛まつりには、ひまわりクッキーを購入いただきありがとうございました。総数118袋(計708個)を子どもたちが作りました。売り上げは、59,000円になりました。来年の4・5歳児キャンプの費用に使わせていただきます。ありがとうございました。



神愛保育園園長 鵜澤由記子

お知らせ 今年の保育は、12月28日(水)保育おさめ、1月4日(水)保育初めです。

12月29日(木)～1月3日(火)まで保育園は休園となります。



第8回目 担当 清水彩加

私の好きな絵本は、ひさかたチャイルド、間所ひさこ作「ころわんはおにいちゃん」です。私が幼い頃、毎日のように行っていた近所の祖父母の家では犬と猫を飼っていました。その影響で、動物がとても大好きで特に犬と猫に関する絵本はよく読んでいました。

この作品は、ころわんが自分よりも小さい迷子の子猫を、おかあさん猫のもとに届けようと奮闘する様子が描かれています。無事におかあさん猫と会えるのかドキドキしながらも、子猫に頼られて少し照れているころわんに、私は憧れを持っていました。また、この絵本の絵を描いた黒井健さんという方は「手袋を買いに」や「ごんぎつね」も描かれた方で、ころわんや子猫の表情をととても豊かに描いています。そんな温かみのあるころわんの表情に、私は一瞬で虜になりました。ころわんはシリーズ作品になっており、他にもたくさんのお話があります。どの作品もとても温かい気持ちになるので、ぜひ一度読んでみてください。

～出版社からの内容紹介～

公園で迷子になった赤ちゃんねこを見つけたころわんは、ちょっとお兄ちゃん気分。いっしょにお母さんを捜してあげますが...



「ころわん、おにいちゃん、おにいちゃん」  
 この絵本は、ころわんのお母さんを探して、おにいちゃん気分になるころわんのお話です。お母さんを探してあげます。



## 保健だより 2022年12月



朝晩の冷え込みがあり、冬の到来を感じ始めました。また乾燥が気になる季節となりました。園では感染症対策と湿度管理の両面から、換気のために窓を開けて過ごしています（暖房と加湿器を使い、一定の室温と湿度を保っています）。先月は風邪症状・発熱でお休みされるお子さんがいましたが、感染症はみられませんでした。体調面・環境面など気になることがありましたら、声をお掛け下さい。



### 感染性胃腸炎 [ピークは12月ごろ]



- ウィルスや菌の感染によるもので、この季節はノロウィルス、ロタウィルスが代表的です。感染力が強く、拡がりをみせることがあります。
- 嘔吐、下痢の症状から始まり、熱が出る事もあります。症状は2日～1週間程度で治まります。登園の目安は、嘔吐・下痢が治まり、食事を摂れる状態になったらとなります。迷われる時には小児科受診をお願いします。
- 十分に水分補給をして、脱水症状を防ぎましょう。嘔吐、下痢のあとは、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系消毒薬など）ですばやく消毒し、感染を防ぐことが重要です。感染性胃腸炎が考えられる場合、嘔吐や下痢などで衣服が汚れた際、感染を拡げないために、ビニール袋に入れてお渡しします。ご理解をお願いいたします。



### 《歯科検診》

11月24日（木）、園で歯科検診が実施されました。飛沫感染対策・密を避けるため、少人数ずつ並び、時間をかけての検診となりました。子ども達は園での検診を経験していることもあり、幼児は自分の名前を言い、「ありがとうございました！」と元気に言う姿が見られました。検診の結果は、各ご家庭にお配りしました。極端な虫歯のお子さんはなく、噛み合わせ・磨き残しなどのお知らせをしています。治療・受診の必要な方はいらっしゃいますが、かかりつけ歯科医院に通院しておられ様子観察中という方は次回の通院の際にかまいませんので、結果用紙をお持ちください。



食事だより



♪秋の食育活動♪ 様々な行事と絡めて食育活動を行いました！

☆乳児クラス☆ 芋掘り遠足のお芋を触ってみたり、芋掘りごっこを楽しみました。

どんな感触かな？



おいもだー！



うまく掘れるかな？

とったどー!!



掘ったお芋でお芋ごはん！



おいしかったよ♪

☆ひまわり組 神愛まつりのクッキー作り☆

☆ちゅうりっぷ組 お芋クッキー☆



集中して型抜きしています



おいしくできたよ!!



型抜き、トッピングとも真剣に取り組みました！



ひだまり

～地域の親子と園児の交流～



今年も早いもので残すところ1ヶ月足らずとなりました。皆様にとって、どのような1年に感じられましたか。

11月はひだまりでは秋の遠足で清澄公園へ行ったり、母親講座「親子体操」を行ったりと行事が盛りだくさんでした。清澄公園では、どんぐりや落ち葉を拾い、ライオンの製作をしました。銀杏を踏んだ時の感触を楽しむ子もいました。



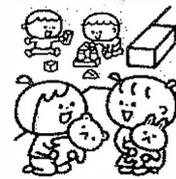
母親講座の親子体操は、身体を使った体操やお母さん向けのヨガを教えてもらい参加者からは「家でもやりたい」という声が聞かれました。



11月の「保育園であそぼう」ではつくし組に混ざって一緒に公園へお散歩に行かせてもらいました。4月から保育園入園希望の方の参加だったこともあり「保育園の雰囲気味わうことができました」と感想を頂きました。これからも園児と関われる機会を大切に、たくさん作っていきたいと思います。



# ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。  
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、  
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを  
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2022年11月24日(木) 天気 晴れ もも組(2歳児)

## 思いと違った…けど！

歯科検診があり、5人と4人に分かれ階段を上って行った。先発のグループが保育士室前に到着。「誰から来る？」と看護師が声をかけると「はいAくん！」と手を挙げ自ら入室していったA。「すごいね」「かっこいいね」等、部屋の前で待っていた保育者や他児が言っていると・・・「うわー」と泣きべそが聞こえてきた。待つ子どもたちの表情がひきつる中、Aが目一杯涙を浮かべ出てきた。「よく頑張ったね！」「ドキドキしたね！」と声を掛けると笑顔で「できた！」とA。状況があまりわからずに先陣を切って向かったようだが、検診後はやりきった達成感からか清々しい表情であった。

先日、保育園では秋の歯科健診が行われました。子どもたちにとって、“歯医者さん”はあまり得意なものではないようで、この日は朝からちょっとどんよりした空気が漂う園内でした。そんな中「ぼくがいく！」と張り切って進んでいったA。しかし予想と違う現実に出会い、涙を見せながら帰ってくることに。それでも「がんばったね」と迎えられ気持ちに寄り添ってもらえたことで、“自分はやったぞ！”と落ち込んだ気持ちをプラスのものへと切り替えたAに、大きな心の成長を感じました。

「行ってくるね」と伝えられる安心感と「ちょっと大変だった…」と伝えられる安心感、クラスの関係の中でAが両方の“安心感”を持っていることがわかります。安心して帰ってくる場所がなければ、安心して出発できないのです。つい私たちは、やる事(行動)に目が向いてしまいがちですが、やるまでの心の準備が実はとても大切なことを改めて感じます。この場面の友だちや職員のように、私たちが子ども一人ひとりの安心の存在になれるよう、意識していきたいと思います。最後に…Aくん、がんばったね！

## 「使いたいけど、Aが・・・」

線路をつなげて電車遊びを楽しむ、AとB。先頭車両をめぐる、雰囲気は怪しくなってくる。先頭車両を使いたいAであるが、二個使いたいという。一つは使っているのだが、もう一つはBが使っている。Aが(使いたいため)涙を流している姿を見て、Bは仕方なく貸した。しかし、その電車を貸すときに投げたため、それがAのおでこにあたり、Aが泣くとそのタイミングでBも涙を流す。Bは自分が使いたいののに、Aの様子を見ていたたまれなくなり、自分の思いはさておき、Aを思いやる姿に心が温まる。Bも本当は貸したくない思いがあったからこそ、投げて渡す姿があった。しかし、それが不本意にも相手を傷つけてしまい、更に思いが揺れる。自分の思いと、友だちを思いやる気持ち、揺れ動くBの姿が印象的な場面だった。

ひまわり組へ遊びに行くと、年中さんから「5歳になったんだ」という言葉をとてもうれしそうに伝えてくれる姿によく遭遇します。子ども自身、心も体も大きくなっていき、同じクラスで生活をしている1歳上の年長さんと同じことができるようになっていくことは憧れのようにです。さて、この5歳児前後の年中さんの大きな特徴として、自分自身で心の制御が少しずつできるようになってきます。それは、相手の微妙な感情表現の変化(顔の表情や言葉の意味)を感じ取り、気持ちを受け止める力ができつつある途上です。そして、自制心や嫌だけどやってみようという心の働きの大きくなり成長することにつながります。日誌の場面のように「自分も使いたい」という思いはある「けれども・・・けれども・・・けれども・・・」と心の中で葛藤しながら、気持ちを乗り越えたり、嫌なことでも受け入れることができるようになります。この時期の葛藤は、大きな成長につながります。葛藤を経験して、時には、怒りをぶつけ、その姿にまた葛藤して・・・この行きつ戻りつの姿がこの時期にはとても大切です。ぜひその姿を周りの大人が受け止め、認めてあげたいと思います。子どもの成長は、直線的な成長のように思ってしまうですが、二歩進んで一歩下がり、また一歩進んで・・・という姿のようですね。

